

平成 13 年度試験研究成果

区分	指導	題名	ラークスパーの抑制作型における短日処理の効果		
[要約] 7月中旬以降定植の作型において、育苗期および定植後 30 日間の短日処理により、切花長、切花重の増加が見られ、2 L 品率が向上する。また、定植期により差があるが、短日処理により約 10 日～20 日間、開花を抑制することができる。					
キーワード	ラークスパー	短日処理	開花抑制	園芸畑作部南部園芸研究室	

1. 背景とねらい

ラークスパーの抑制作型は、生育期が高温期を経過するために、良品生産が難しく、また、開花期も前進化する傾向にある。そこで、沿岸地域の夏期冷涼な気象条件を活かしながら短日処理による高品質生産技術を確立するとともに、出荷期間の拡大を図ろうとするものである。

2. 技術の内容

- (1) 7月中旬以降に定植する作型では、育苗期および定植後に 30 日間短日処理をすることで切花長、切花重等が増加する。(表 1)
- (2) 7月中旬以降に定植する作型では、育苗期および定植後に 30 日間短日処理をすることで 2 L 品の割合が増加し、遅い作型ほど、その割合が増加する。(表 2)
- (3) 短日処理により、10 日以上開花を抑制させることができ、定植時期が遅くなるほど、開花抑制効果は大きくなる。(表 3)

3. 指導上の留意事項

- (1) 8月以降定植の作型では、採花終期に、夜間約 10 度で補助暖房しなければ、開花が遅れたり、不開花となる場合がある。
- (2) 栽培期間中、立枯病等が発生する機会が多いので、過湿圃場での栽培を避けたり、高畦対策を施すなどの耕種的防除を心がける。
- (3) 育苗期間中は高温期にあたるので、適温での管理に努め、生育の揃った充実した苗を用いる。

4. 技術の適応地帯

沿岸地域

5. 当該事項に係る試験研究課題

- (203) 施設の高度利用技術による花き周年生産化技術
- (1000) ラークスパー等の越冬、抑制作型における良品生産技術の確立

6. 参考文献・資料

- 平成 12 年度 試験成績書 岩手県農業研究センター 南部園芸研究室
- 平成 13 年度 試験成績書 岩手県農業研究センター 南部園芸研究室(未定稿)

7.試験成績の概要

表 1 定植後の短日処理が品質におよぼす影響

定植日 (播種日)	短日処理の有無	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 (mm)	節数 (節)	花穂長 (cm)	分枝数 (本)	花蕾数 (個)
07/09 (06/04)	有	88.4	24.8	4.6	16.4	30.6	4.2	15.3
	無	94.9	26.0	4.8	16.3	31.0	4.7	17.5
07/17 (06/20)	有	99.9	36.9	5.1	18.5	31.9	5.7	17.8
	無	95.8	28.3	4.9	16.2	27.5	5.3	19.0
08/09 (07/05)	有	111.7	52.4	5.9	17.7	36.6	5.5	15.2
	無	101.9	40.7	5.4	17.2	35.4	5.4	16.6

注)・短日処理方法：定植後 30 日間、9 時間日長処理（午後 5 時から翌朝 8 時まで μ シット - 100 により被覆）

- ・発芽後 30 日間は、9 時間日長処理（午後 5 時から翌朝 8 時まで μ シット - 100 により被覆）し、夜温 15 度で管理
- ・供試品種：サンシャインライク

表 2 規格別採花割合

定植日	短日処理の有無	規格別採花割合 (%)				
		A 2 L	A L	A M	A S	規格外他
07/09	有	13.3	21.3	37.3	16.0	12.0
	無	42.7	25.3	16.0	13.3	2.7
07/17	有	51.5	24.2	14.1	7.1	3.0
	無	42.4	26.3	20.2	9.1	2.0
08/09	有	76.0	12.5	8.3	3.1	0.0
	無	56.3	32.3	8.3	3.1	0.0

注) A2L:100cm AL:90cm AM:80cm AS:70cm 規格外他：60cm および B 品

表 3 定植後の短日処理が採花期におよぼす影響

定植日	短日処理の有無	採花始期	採花盛期	採花終期
07/09	有	08/30	09/06	09/12
	無	08/24	08/28	09/04
07/17	有	09/13	09/19	10/05
	無	09/05	09/08	09/13
08/09	有	10/16	10/29	11/13
	無	10/05	10/09	10/18

注) 採花始期：採花株率 10% 採花盛期：採花株率 50% 採花終期：採花株率 90%